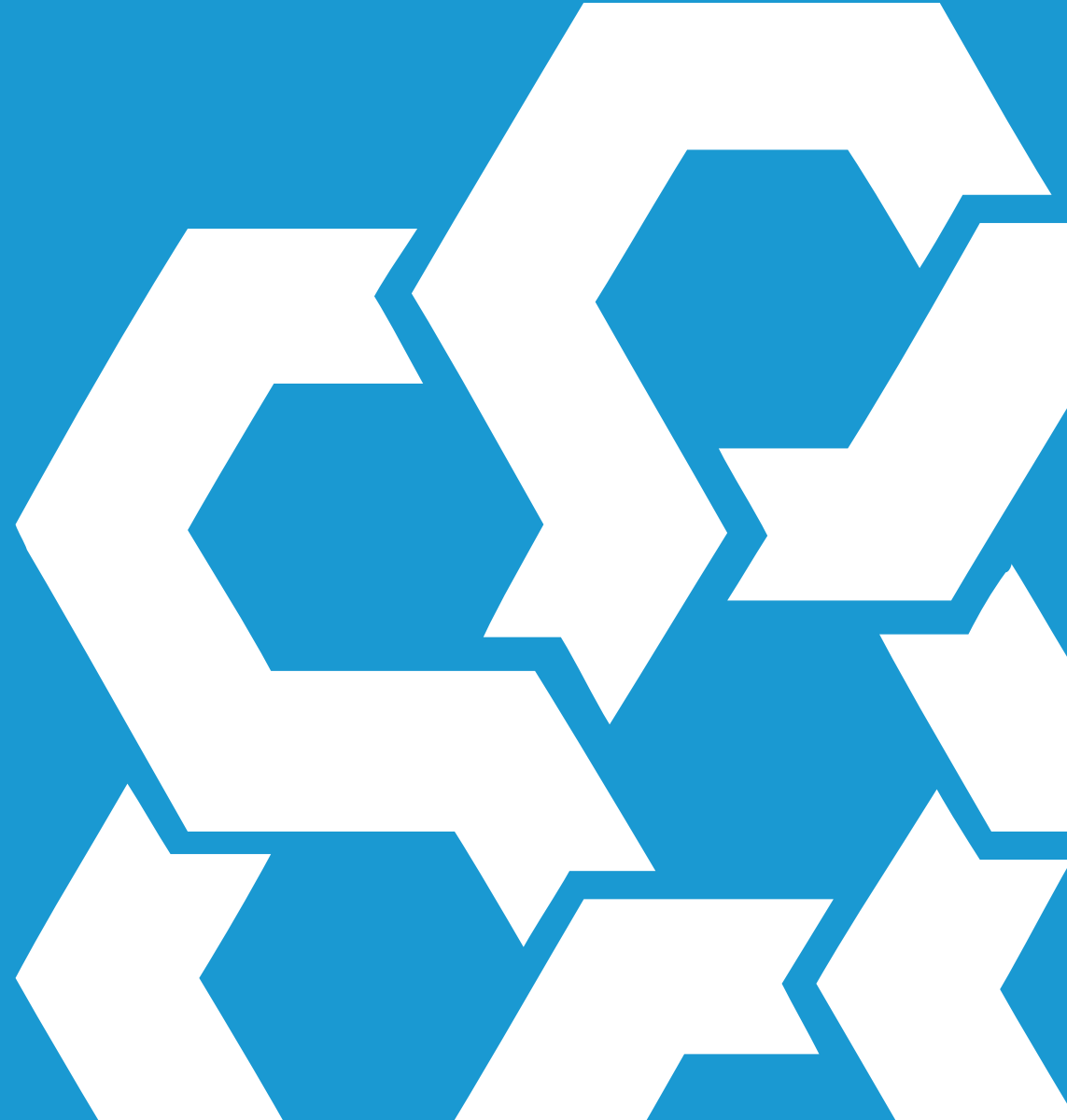

ISSB最新動向

- 今後2年間の作業計画に関する意見募集
- 相互運用性(Interoperability)
- コネクティビティ(Connectivity)

国際サステナビリティ基準審議会 理事 小森 博司

今後2年間の作業計画に関する意見募集



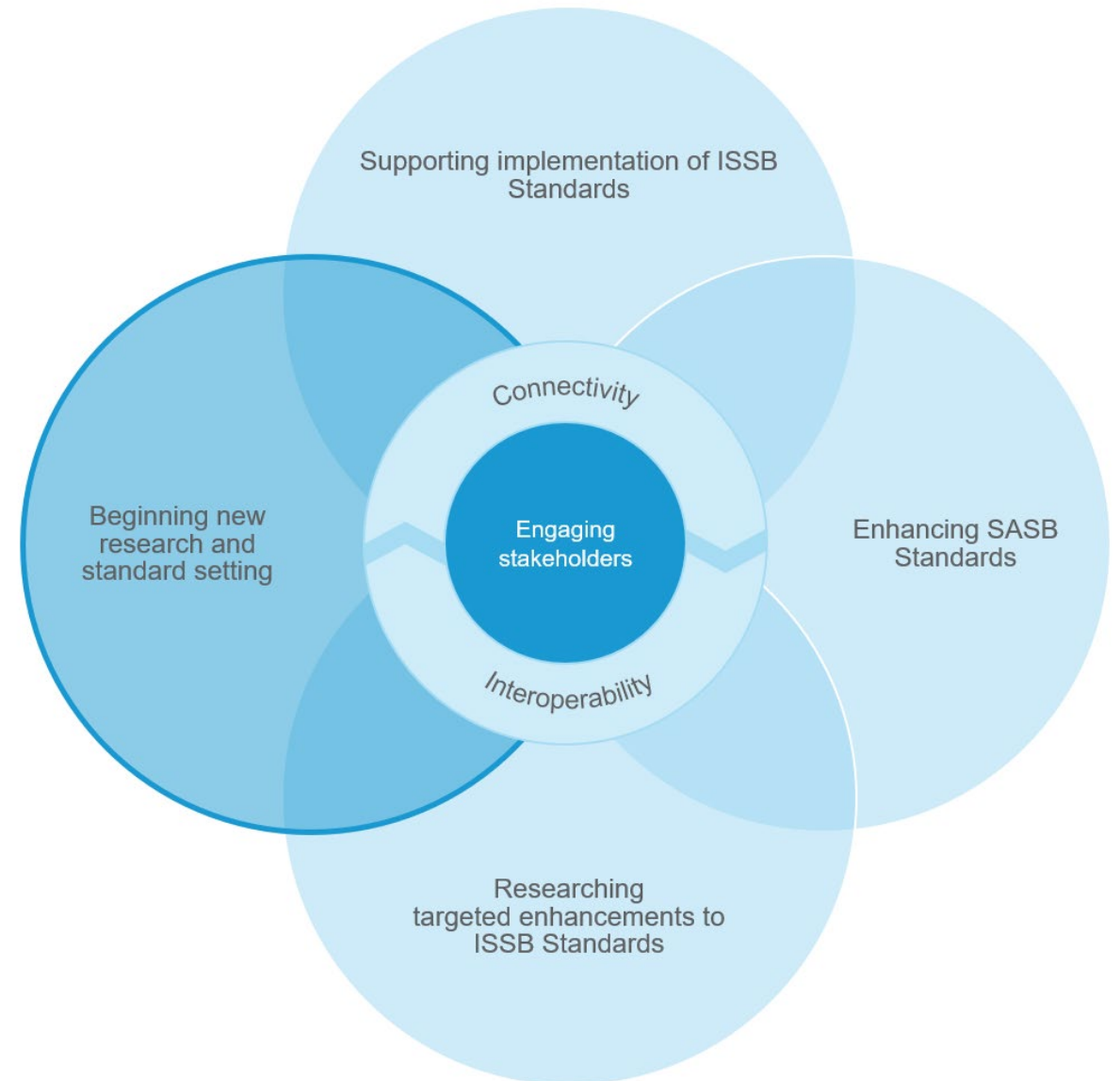
以下についてのフィードバックを 求める

- 1 ISSBの活動の戦略的方向性及びバランス
- 2 新たなプロジェクトの優先度の評価規準
- 3 潜在的な新たなリサーチと基準設定プロジェクトの優先順位、範囲及び構成

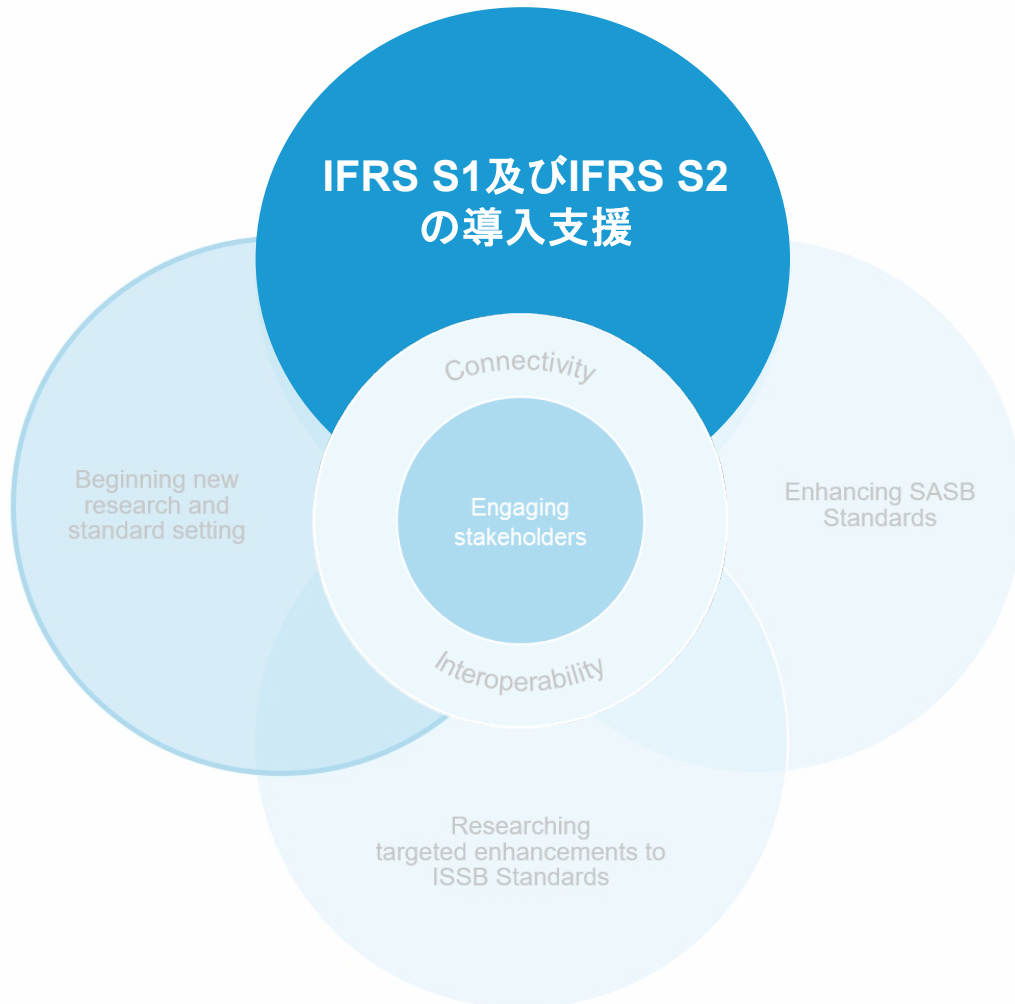


1 戦略的方向性及び バランス

- サステナビリティ関連開示の包括的なグローバルベースラインを提供する戦略的方向性
- 活動の優先度の決定方法
- 主要な活動のバランスを決定する際のトレードオフ
- 今後2年間の作業計画



約束された活動



利害関係者がISSB基準について共通の理解を得ることを助け、持続可能性に関連する開示の包括的なグローバルベースラインの提供を可能にすること:

- ガイダンスをさらに発展させる
- 適用支援のためのプロセス(移行実施グループの設置など)
- 教育・認識向上プログラム
- IFRSサステナビリティ開示のデジタルタクソミー

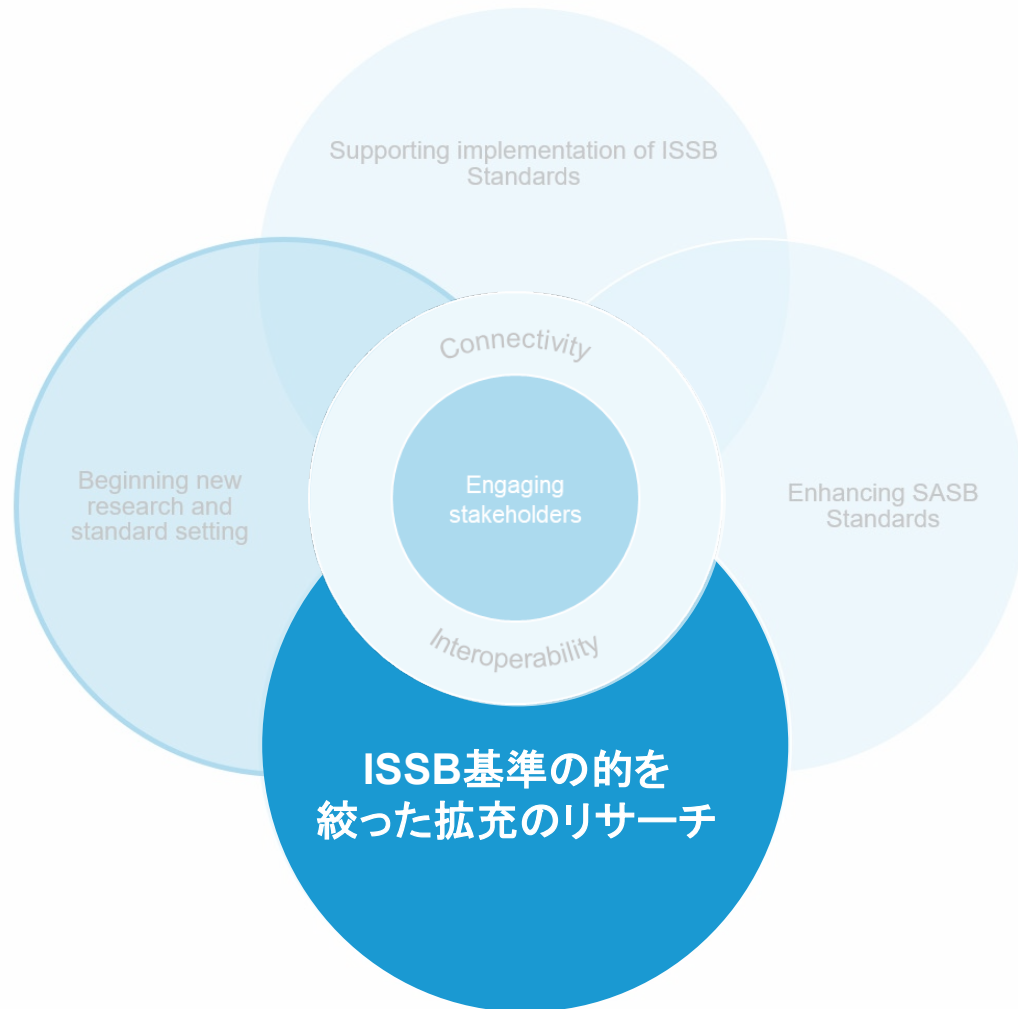
約束された活動



SASB基準の拡充及び維持を支援するために:

- SASB基準の国際的な適用可能性を強化することを目標にする
- SASB基準審議会から引き継がれた産業別の基準設定作業を推進する
- リサーチ、コンサルテーション、アウトリーチ、改訂を通じてSASB基準を維持する

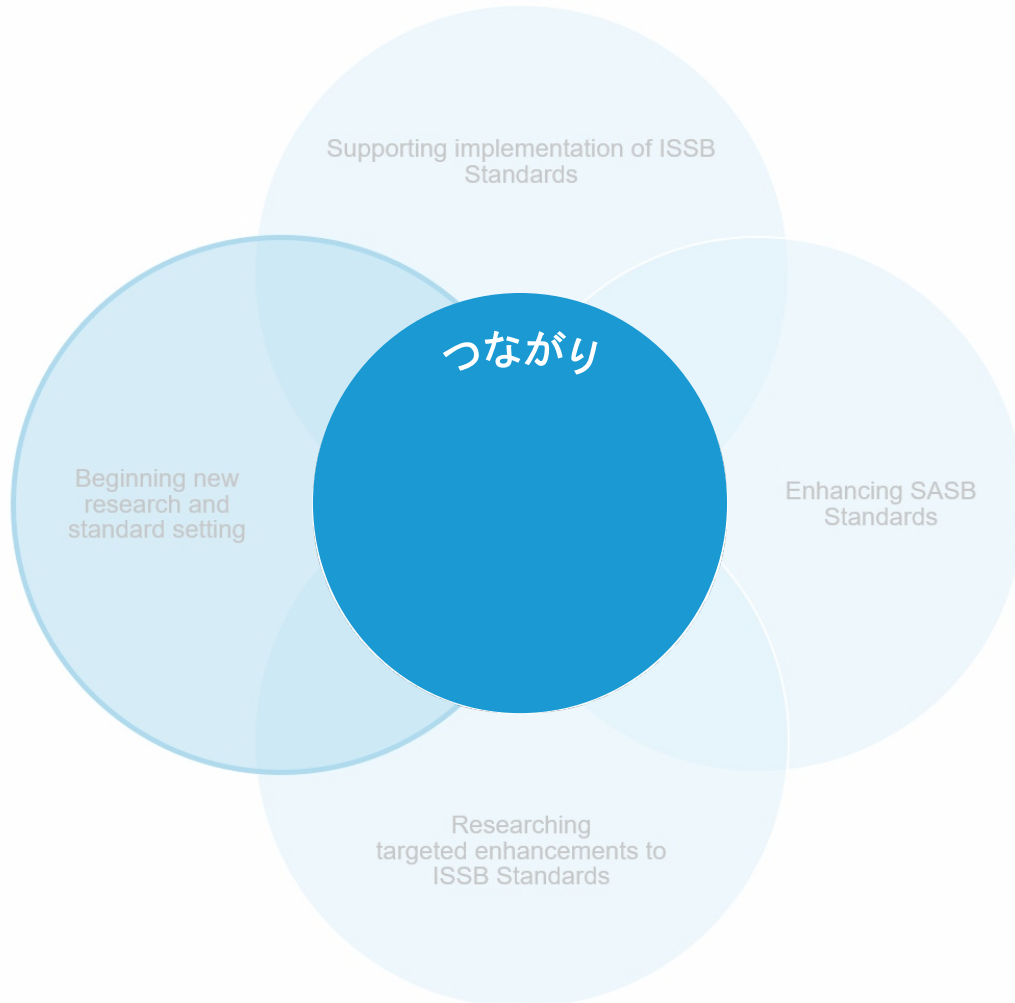
約束された活動



ISSB基準を使用した開示の推進を支援するため:

- 気候と自然の共通したリスクと機会、および低炭素経済への公正な移行などの社会経済的側面と密接に関連するリスクと機会を識別する
- 気候関連のリスク及び機会、関連する指標、および気候関連の戦略と移行計画について、ロケーション、バリューチェーン、産業別の面から調査する

約束された活動

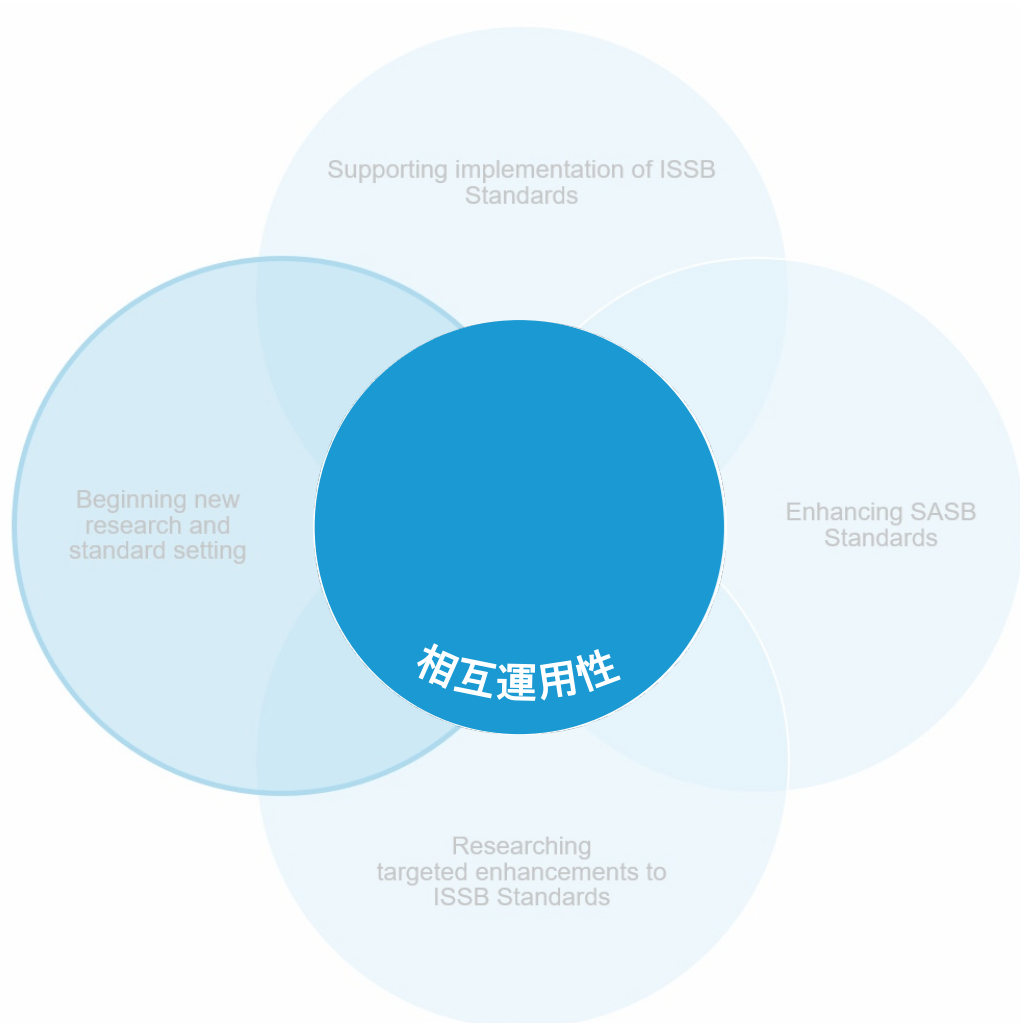


サステナビリティ関連の財務情報や財務諸表を含む、首尾一貫した包括的な報告システムの提供を促進するため:

- ISSBとIASBのそれぞれの要求事項は互換性で補完的であり
- IASBとISSBの作業の結束力がある

この活動は、新規プロジェクトを含むISSBのすべての活動の「中核」となっている

約束された活動

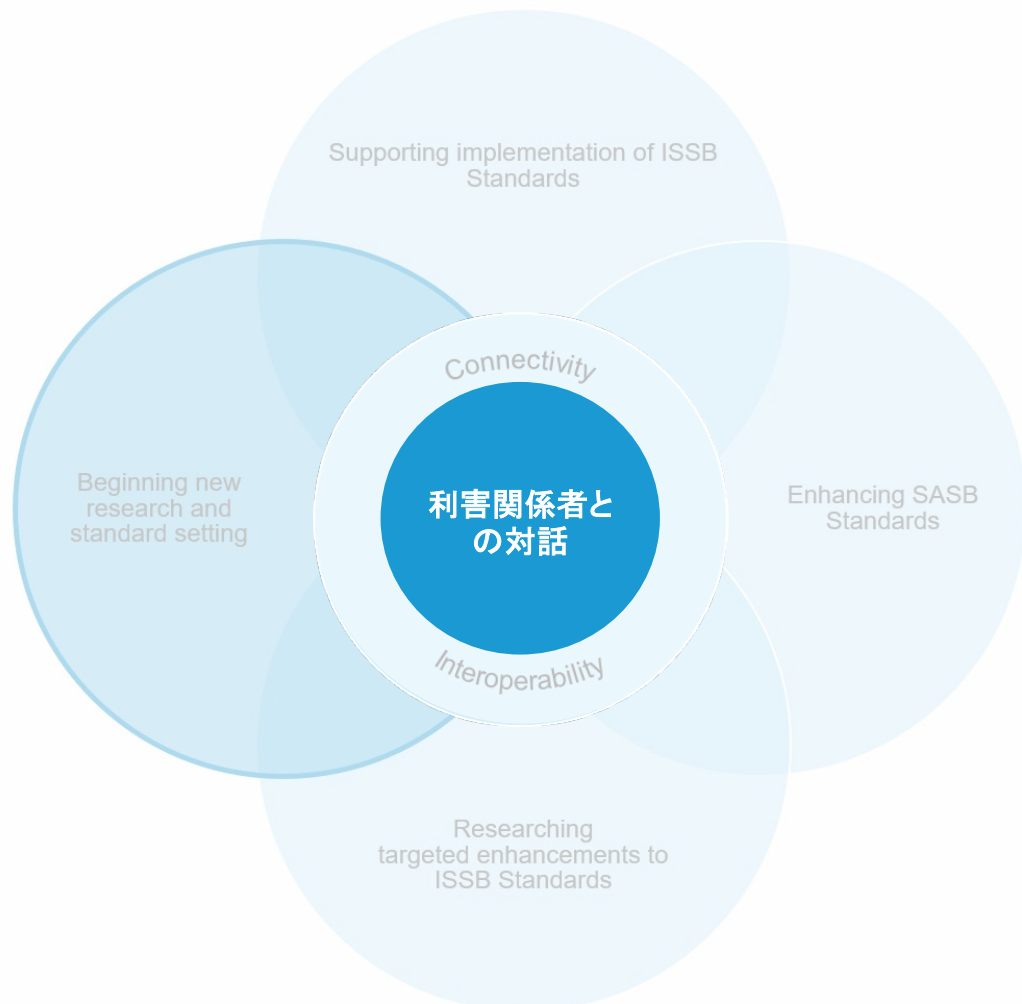


他の法域や自主的な取り組みとの相互運用性を支援するサステナビリティ関連開示のグローバルベースラインの提供を促進するため:

- 以下の団体との協働:
 - 法域別ワーキング・グループ(JWG)
 - GRI
 - サステナビリティ基準アドバイザリー・フォーラム (SSAF)
- ISSB基準を他の基準に関連づけ、相互運用が可能な利用方法に関するガイダンス

この活動は、新規プロジェクトを含むISSBのすべての活動の「中核」となっている

約束された活動



基準のグローバルな利用を促進し、質の高いサステナビリティ関連の開示要求事項のためのインプットを得るため:

- 諮問機関
- 協議グループ
- 外部のイベントや会議
- プロジェクトのアウトリーチ
- IFRSサステナビリティシンポジウム

この活動は、新規プロジェクトを含むISSBのすべての活動の「中核」となっている

2 新たなプロジェクトの 評価規準

投資家にとっての
マテリアリティ

その事項に関する
企業開示方法の**不備**の
有無

その事項が影響を及ぼ
す企業の**種類**(法域に
より、その事項が及ぼす
影響の大きさの違いも
考慮する)

その事項が企業にとっ
てどの程度**広範**または
喫緊であるか

ISSB(またはIASB)の
作業計画におけるその
他のプロジェクトとの
関連性

潜在的なプロジェクトの
複雑性と**実現可能性**、
ならびに、その解決方法
の有無

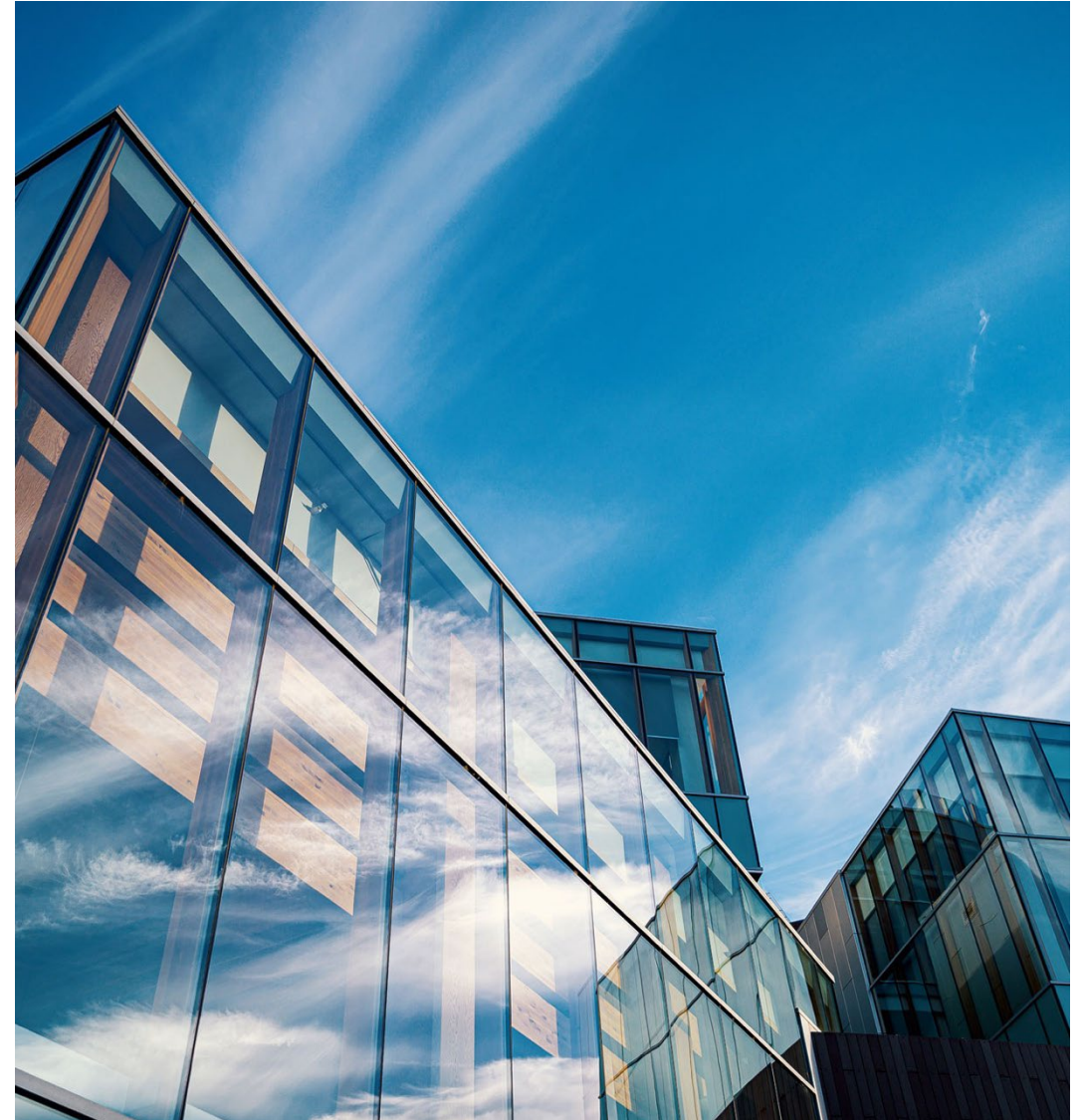
ISSBとそのステークホ
ルダーによる適時な
進歩を可能とする
キャパシティの有無

その他の法域や任意のサステナビリティ基準設定主体、フレームワーク提供者の作業も考慮する。

3 新たなリサーチ及び基準 設定プロジェクト

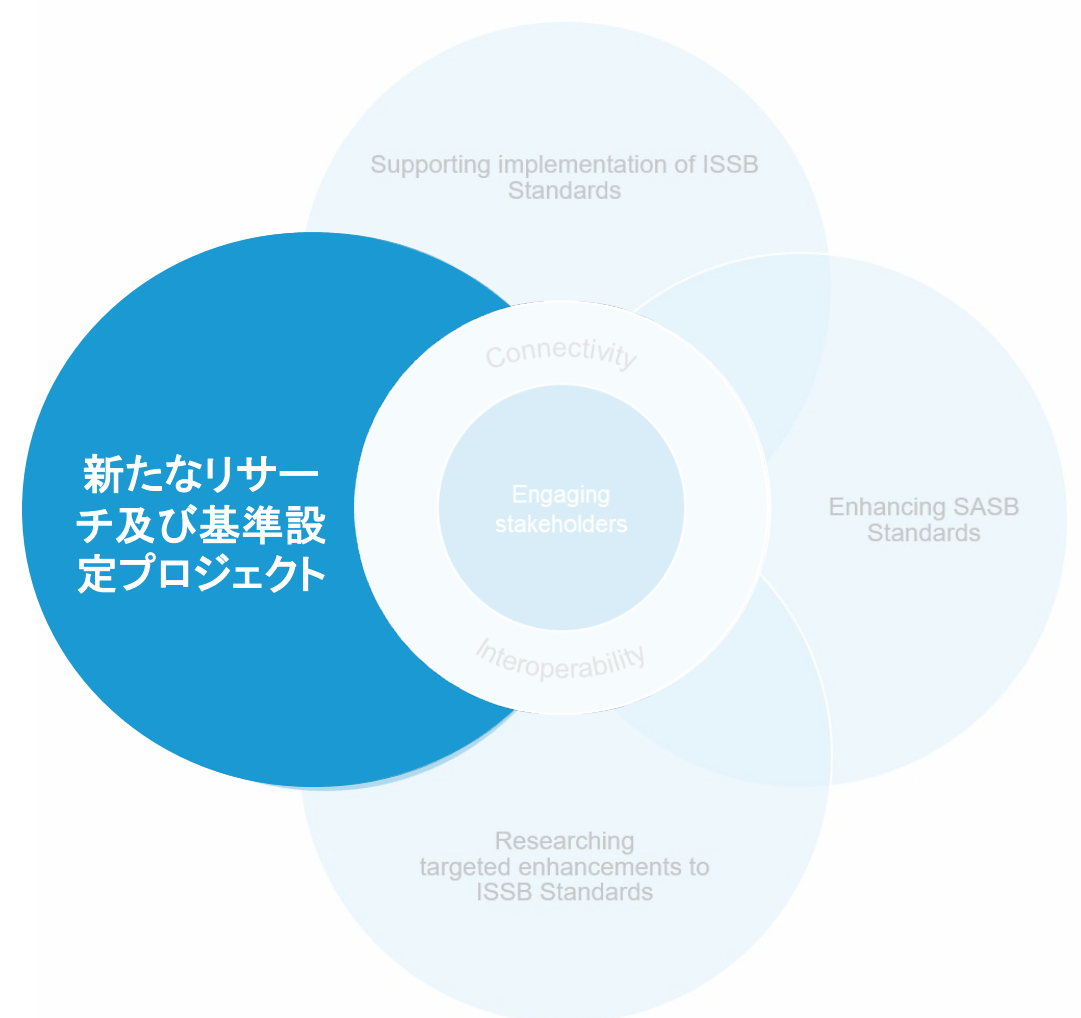
情報要請には、以下についての説明が含まれており、それに対するフィードバックが求められている:

- 次のサステナビリティ関連のリスク及び機会に関するリサーチ・プロジェクト:
 - 生物多様性、生態系及び生態系サービス
 - 人的資本
 - 人権
- 報告における統合に関するリサーチ・プロジェクト



新たなリサーチ及び基準設定プロジェクト

- 潜在的なプロジェクトの相対的な優先順位
- **サステナビリティ関連の論点:**
 - サブトピック、産業、セクターの相対的な優先順位
 - 関連資料および他の法域および自主的な基準設定者およびフレームワーク提供者の基準の優先順位
- **報告における統合**に関するプロジェクト:
 - プロジェクトを進める上での相対的な優先度と適時性
 - プロジェクトがIASBとの正式な共同プロジェクトとして進められるべきかどうか
 - プロジェクトがIASBの公開草案であるマネジメントコメントリー、統合報告フレームワーク、その両方、またはその他の資料を利用すべきかどうか

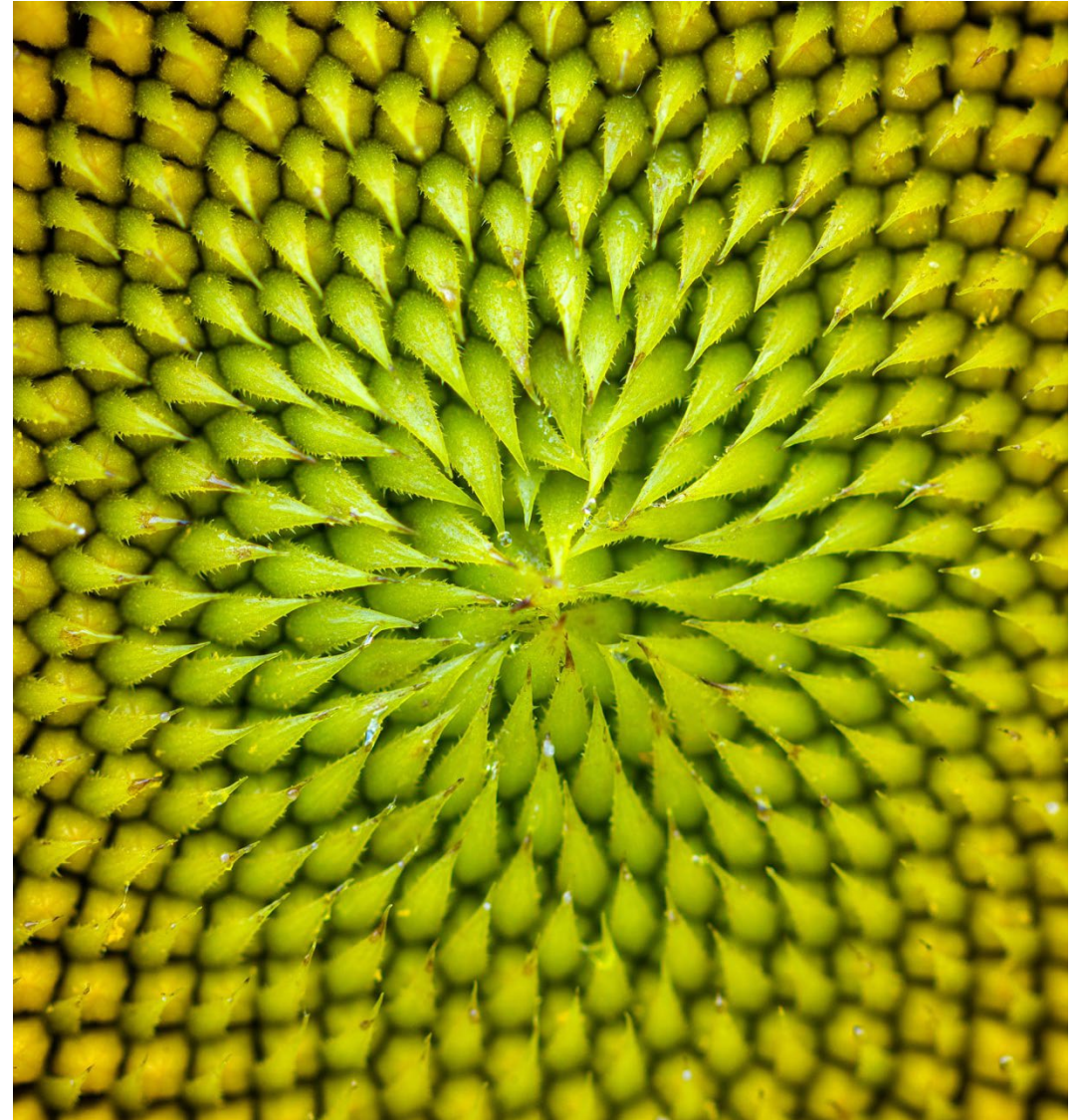




生物多様性は、自然のシステムの基本的な特徴であり、機能的で生産的でレジリエンスな生態系を代理するものであり、**生態系**は地球上の生命が依存する**生態系サービス**を提供することができる。

生物多様性、生態系及び生態系サービス(BEES)

- 生物多様性は財務安定性に対する脅威を低減する
- 人間の活動は直接的及び間接的にBEESの変化に関わる
- 企業は保存、保全及び修復に貢献することにより、その恩恵を受けることができる
- 効果的な開示は、原材料の供給と価格設定の安定性により、事業のレジリエンスを高めることができる
- 候補となるサブトピックには以下の項目が含まれる: 水、土地利用及び土地利用の変更、汚染、資源の搾取、侵略的な外来種

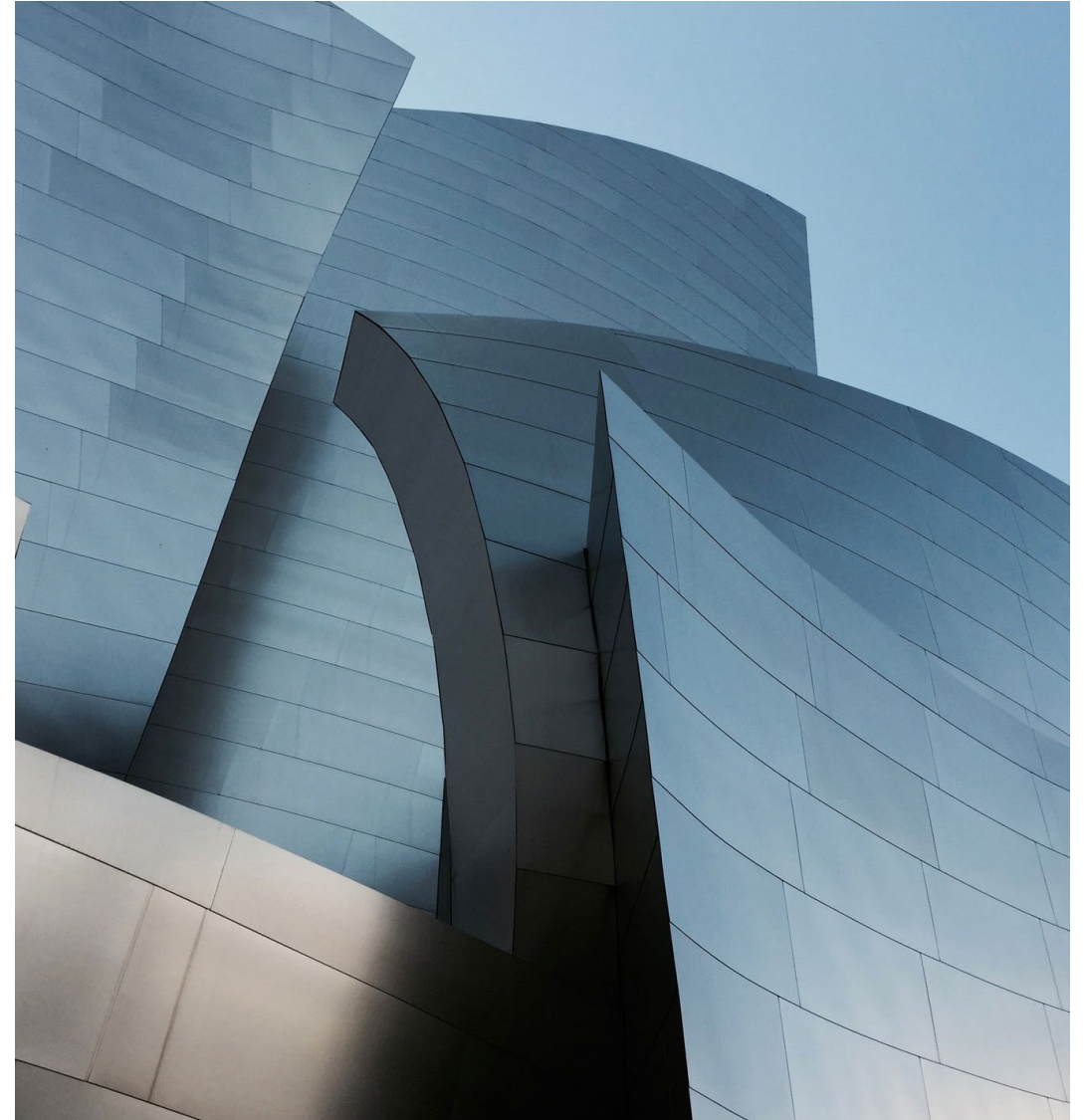




人的資本とは、企業自身の労働力を構成する人々、及びその労働力それぞれの適性、能力及び経験、並びにイノベーションへの意欲を指す。

人的資本

- 人的資本の検討は、企業の以下の能力を高め、価値に影響を与える：
 - 人材の獲得と保持
 - 製品とサービスの設計、販売と流通
 - 地域社会との関係の強化
 - イノベーションの促進
 - リスクの識別
 - 生産性の向上
 - コストの節約
- 候補となるサブトピックには以下の項目が含まれる：労働者のウェルビーイング；多様性、公平性と包括性；従業員エンゲージメント；労働力への投資；代替的労働力；バリューチェーンにおける労働条件；労働力の構成とコスト

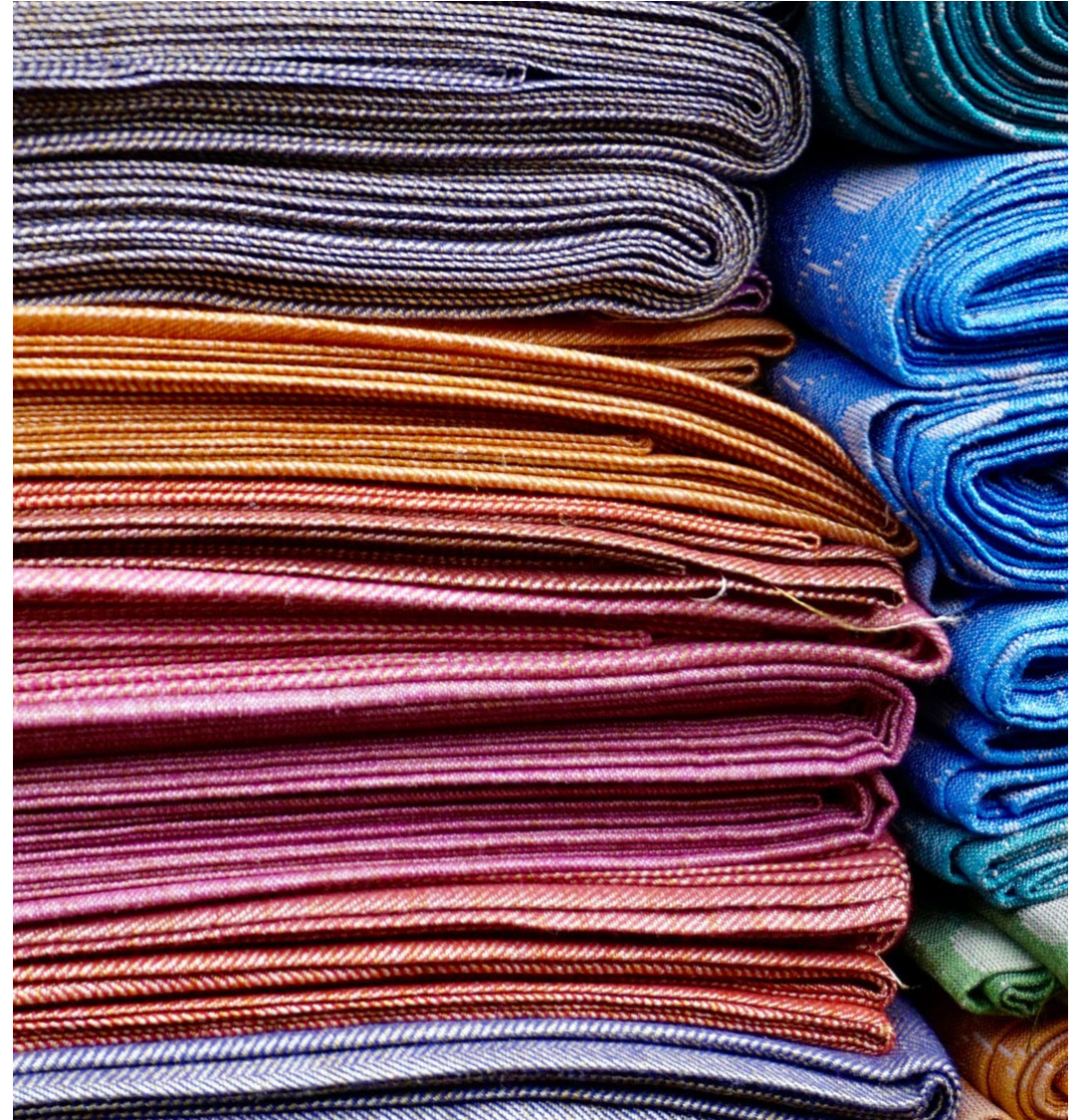




人権とは、人間であることによってあらゆる人に属する基本的な権利及び自由である。これらの普遍的な権利は、最も基本的な権利（例えば、生存権）から、人生を生きる価値のあるものとする権利（食物、教育、仕事、健康及び自由に対する権利など）までの範囲にわたる。

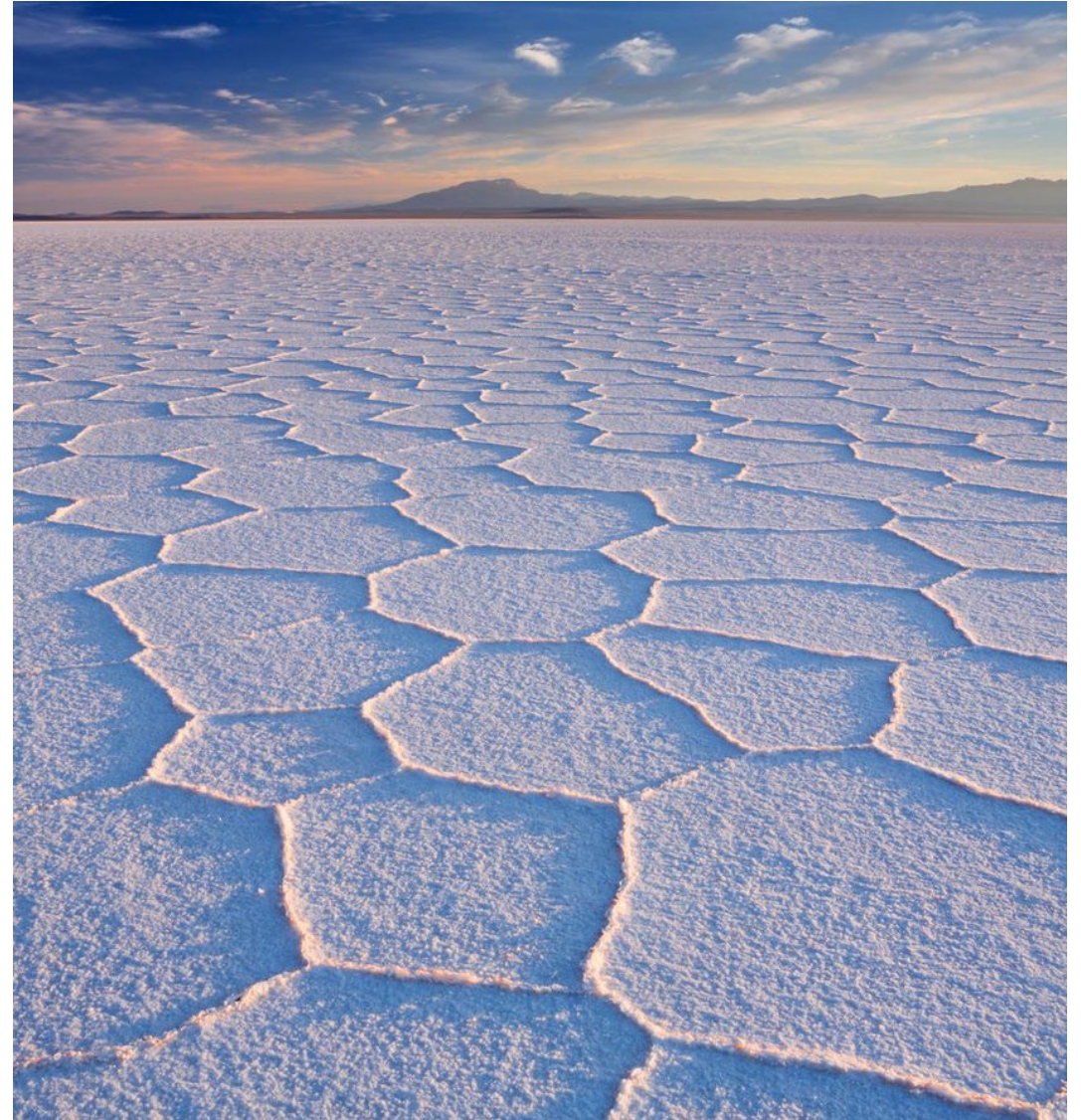
人権

- 人権問題は以下の項目に影響を与えうる：
 - リスクと機会
 - 価値と評判
 - 事業運営の認可
- リサーチは、人権がどのようにサステナビリティ関連のリスクと機会につながるのかに焦点を当てることになる（法域やビジネスモデルによって異なる人権問題や、既存の慣行、ツールと指標を理解するためのリサーチを含む）



報告における統合は、価値創造に関する情報が、概念上及び事業上の関連性を通じて、どこで、どのような内容を、どのように繋がりをもたせることを包含するののみならず、以下の項目間の相互依存性、シナジーとトレードオフも含む：

- 様々なリソースと関係性
- 企業による、自社及びその投資家のための価値創造は、企業が他のステークホルダー、社会及び自然環境のために創造する価値と密接に関連している

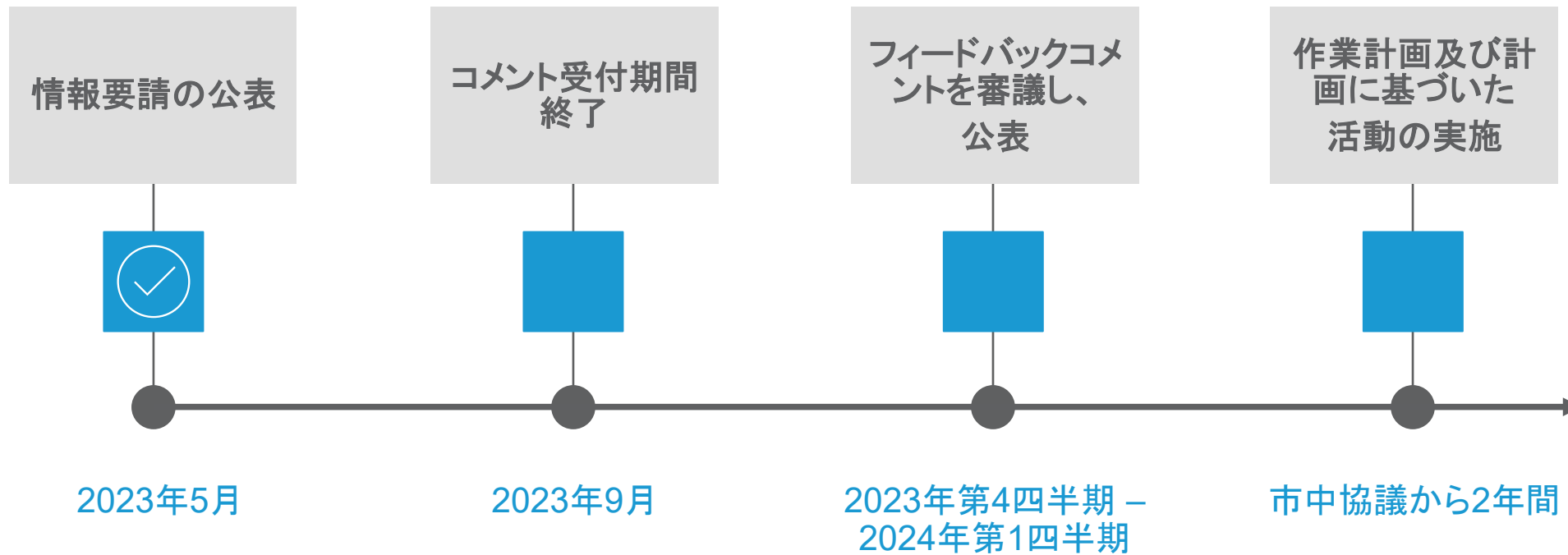


考慮事項:

- 4つのリサーチ・プロジェクトはすべてリソースを大量に必要とする。
- ISSBは、トピックとサブトピック (たとえば、人権と人的資本) の重複をより深く理解しようとしている。
- ISSBは、必要に応じて、ISSB およびその他の基準設定者およびフレームワークの資料を活用して、作業を迅速化する。
- フィードバックに基づいて、ISSBは1つのみまたは2つのプロジェクトを作業計画に追加する可能性がある。
- 情報要請に含まれていないプロジェクトは、将来の作業計画の「対象外」とみなされるべきではない。
- 主に4つの新しいプロジェクトに関するフィードバックを求めている。ただし、他のプロジェクトを提案することもできる。
- 投資家の情報ニーズを満たすという観点からプロジェクトの重要性を説明するフィードバックは特に役立つ。



タイムラインと次のステップ



相互運用性(Interoperability) - ISSBとESRS



ISSB基準:

追加の要求事項
(例: ファイナンスド エミッション)

気候関連開示
におけるハイレ
ベルな整合性*



ESRS:

(企業の見通しにリスクや機会を
生み出さない)インパクトに興味を
持つ利害関係者に対する追加の
要求事項と、省略または覆い隠さ
れた場合でも投資家の意思決定
に合理的に影響を与えない情報

開示に関するハイレベルな整合性により、リスク管理、および依存関係と影響が企業の財務状況と見
通しにどのようにリスクと機会を生み出すかについて、意思決定に役立つ情報を投資家に提供する。

* ISSB、欧州委員会、EFRAGは、企業が整合性を高めるために必要な選択や特定の要件がある基準の箇所を含め、それぞれの基準間の整合性と相互運用性を説明する
方法について議論している。

相互運用性はどのように拡充されたか

ISSB、欧州委員会、EFRAG は相互運用性を向上させるための基準の変更 – 例:

- “CO2 equivalent“の定義を一致 (GHGプロトコルと一致)
- ‘anticipated financial effects’の単語を一致

ISSB基準及びESRSにおける相互参照

- ISSB 基準では、投資家の情報ニーズを満たす範囲で、気候以外の問題についてどのような情報を開示すべきかを特定するためのガイダンスの情報源として ESRS を参照
- ESRS は、企業の ESRS に基づいて作成された開示を補完するものとして、IFRSの産業別ガイダンスを参照

現在の取組み

- 欧州委員会、EFRAG、および ISSB は、それぞれの要求事項の整合性と相互運用性を説明する**相互運用性ガイダンス資料**について議論している。**デジタルタグ付け**の重要性が認識されている。
- これらの資料は、以下について企業の役に立つと考えられる:
 - **共通開示の識別**
 - ISSB 基準又は ESRS **固有の開示の特定**
 - 「自動的に」**整合される開示と、選択されたときに整合できる開示の特定** (例: GHG プロトコルを適用した GHG 排出量の測定)



コネクティビティ(Connectivity)



つながりのある情報

- 関連する財務諸表内の関連性を説明し、関連性のある方法で情報を提供
- サステナビリティ関連のリスク及び機会 (IFRS S1)、および気候関連のリスク及び機会 (IFRS S2) が企業の現在および予想される財務業績、財政状態、およびキャッシュフローに及ぼす影響に関する情報を開示
- 企業が適用する会計基準を考慮して、*可能な限り*一貫したデータと仮定を使用
- 条件が満たされれば、相互参照による情報が含まれる場合がある
- 財務諸表との相互参照の可能性



Follow us online

 [ifrs.org](https://www.ifrs.org)

 [sasb.org](https://www.sasb.org)  [integratedreporting.org](https://www.integratedreporting.org)

 [@IFRSFoundation](https://twitter.com/IFRSFoundation)

 [IFRS Foundation](https://www.youtube.com/IFRSFoundation)

 [International Sustainability
Standards Board](https://www.linkedin.com/company/ifrs-foundation)